



「ヤブミョウガ（藪茗荷）」

2024年9月4日



ミョウガ（茗荷）と名についていますが、ミョウガとは異なる仲間で、単に葉がミョウガに似ていることから「ヤブミョウガ」と呼ばれています。確かに葉はミョウガですね。こちらの「ヤブミョウガ」はツユクサ科、ミョウガはショウガ科です。

阿南高校北側の薄暗く湿気のある藪（林内）の中に群生し、今白い花を咲かせています。背丈が50cmから1m前後の葉のない茎上部に、小さい花ではありますが白くて丸い蕾（つぼみ）をつけ、白い花を咲かせます。一日花ですが次々と咲くため、1ヶ月以上白い花を楽しめます。

すでに青藍色の実をつけたものもあるように、8月上旬くらいから咲いています。ミョウガは薬味や甘酢漬けなど（自分が一番好きなのはミョウガおかかですかね。）でよく食べますが、こちらも食用になるそうです。と言っても、ミョウガのように風味も香りもないため、あまりおすすめではないようです。（初夏の若葉を塩茹でや天ぷらにして食べるそうです。）



よく見ると、小さいながらもなかなか美しい花・実で、観賞用に栽培する方もいるようですよ。

放射状に広がった花「シシウド（獅子独活）」

2024年9月10日

阿南町の深見池周辺の日当たりのいい土手斜面に、白く小さな花が放射状（線香花火の様）に密集して咲いています。他の雑草に比べ一際高く（2m近く）、



とてもよく目立ちます。セリ科の「シシウド（獅子独活）」です。

この植物の葉がウド（ウコ



ギ科）と同じような独特の臭いがあり一応食べられるが、苦味があってイノシシぐらいし

か食べないことから「シシウド」と名がついたそうです。調べてみるとシシウドの根には薬用成分が含まれていて、生薬として冷え性や神経痛、発汗や解熱・鎮痛に服用して用いられてきた様です。特別美しく珍しくもないため、つい見過ごしてしまいましたが、線香花火のように広がった花に何か魅力を感じるのは、自分だけでしょうか・・・。

夜明け前の星空「アケボノソウ（曙草）」

2024年9月13日

花びらの紫がかかった斑点を、夜明け前の空の星々に見立てて「アケボノソウ（曙草）」と名がついたと言われています。ネーミングもですが、見るからにも繊細でロマンティックな素敵な花ですね。今日、阿南町の新野にある阿南第二中学校の進路講話に行った帰り



道（国道151号線）の沢沿いで見つけました。花自体大きさは約2cmの星形の白い花で、花びらの中央には黄緑色の2つの斑点も

よく目立ちます。こちらは蜜線で、よく見ると蜜が出ています。蜜線はめしべやおしべのある花の中央にあるのが普通ですが、この花は花びらの中央と、とてもめずらしいところにあり驚きです。黄緑色の斑点、拡大してよく見ると蜜が溢れんばかりに盛り上がり輝いていますね。このアケボノソウ、あの苦い胃腸薬で有名な薬草センブリ（千振）にも似ているなと思ったら、同じ仲間（リンドウ科センブリ属）でした。

花言葉は「祝福」「希望」だそうです。昨日の[信濃](#)

[毎日新聞デジタルに、根羽村の茶臼山湖周辺でアケボノソウが見頃を迎えた](#)との記事が掲載されています。

